

平成26年11月

学力向上

「総社っ子輝きプラン」

1年目終了時点の成果・検証

－平成26年度

全国学力・学習状況調査結果を踏まえて－



★小学校では、平均正答率の差が平成24年度の全国比-5.5ポイントから平成26年度の全国比-0.6ポイントまで縮まった。中学校でも、平成25年度よりは下回ったものの改善傾向にある。

1 正答率

全国比
小学校 -0.6 P
中学校 -0.5 P

全国比 小 +1 P
中 +2 P
を目指す

総社市の平均正答率

<小学校>	総社市	岡山県	全国
国語A	71.9	71.4	72.9
国語B	55.9	54.5	55.5
算数A	76.9	77.8	78.1
算数B	57.6	56.6	58.2
4科目平均	65.6	65.1	66.2

<中学校>	総社市	岡山県	全国
国語A	79.5	78.2	79.4
国語B	49.6	48.1	51.0
数学A	67.5	65.4	67.4
数学B	59.1	55.9	59.8
4科目平均	63.9	61.9	64.4

★小学校の国語Bで全国を上回った。輝きプランにより言語活動の充実が図られつつあり、B問題の正答率の伸びは評価できる。

2 推移

①合計平均正答率 (H24~H26)

H24比
小学校 +4.7 P
中学校 +1.6 P

②正答率40%以下児童生徒の割合 (H24~H26)

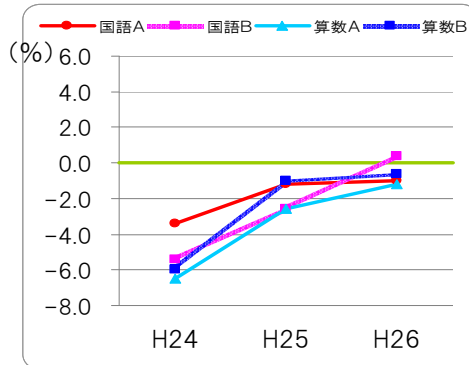
H26 小学校 19.0%
中学校 21.5%
15%以下を目指す

③標準化得点 (H24~H26)

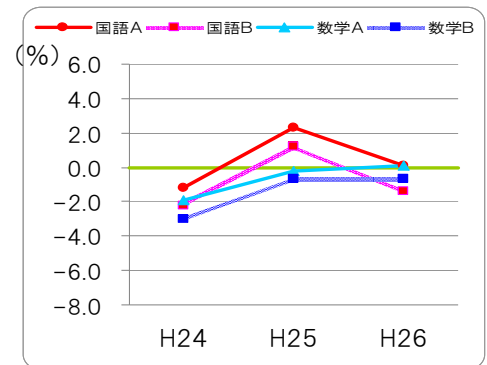
H26 小学校 99.5
中学校 99.8
H26 100以上を目指す

全国平均正答率との差の推移グラフ

<小学校>

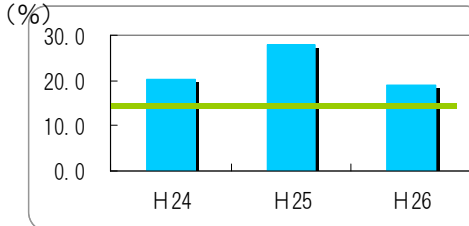


<中学校>

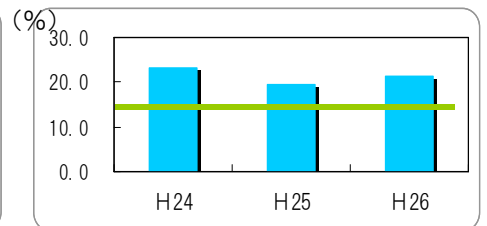


正答率40%以下児童生徒の割合の推移グラフ

<小学校>



<中学校>



総社市の標準化得点の推移

<小学校>	H24	H25	H26
国語A	98	99	99
国語B	98	99	100
算数A	96	99	99
算数B	97	100	100
4科目平均	97.3	99.3	99.5

<中学校>	H24	H25	H26
国語A	99	101	100
国語B	99	100	100
数学A	98	100	100
数学B	98	99	99
4科目平均	98.5	100	99.8

3 プランの達成率

★「全国の平均正答率を上回る」という目標については、小学校の国語Bで達成できたが、中学校の国語Bでは達成率97%であり、全教科の平均正答率では達成率99%である。

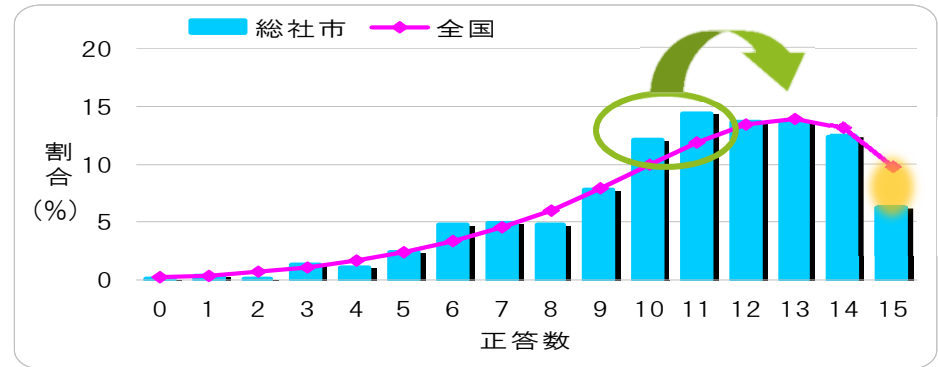
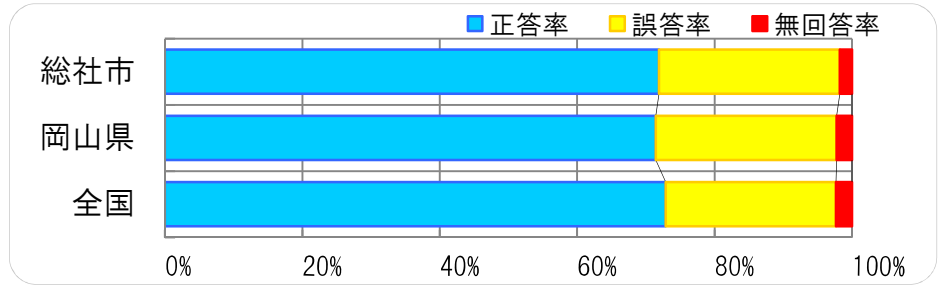
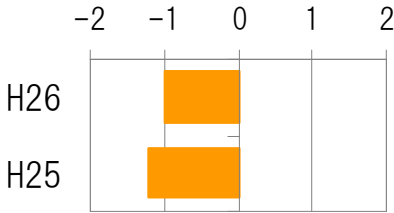
★「H26の標準化得点100以上」という目標については、小学校の国語B・算数B、中学校の国語A・B、数学Aにおいて達成できた。平成27年度の101以上に向けて、小学校においては基礎に、中学校では数学の活用に力点を入れて指導する必要がある。

★平均正答率は 71.9%であり、話す・聞く能力は全国を上回っているが、言語事項にやや課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 $-1.0 P$
無回答率 $-0.6 P$

全国平均との差のグラフ (%)



2 正答数分布

全国比
中央値 $-1 P$
正答率40%以下
 $10.3\% \Rightarrow +0.4 P$

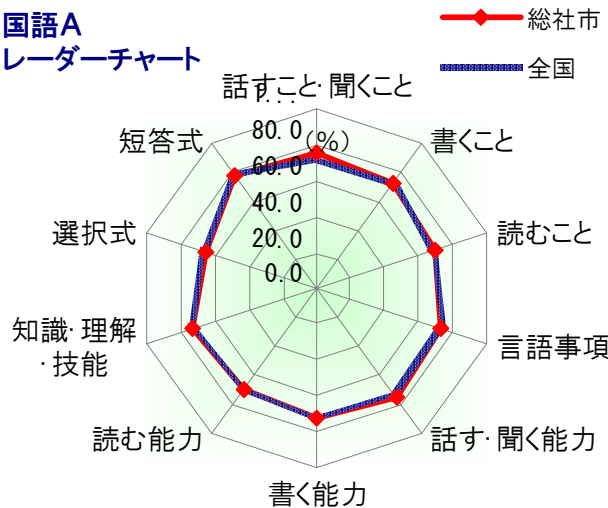
3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問

正答率 (全国比)

国語A

レーダーチャート



★正答数

総社市は11問の割合が最も多い。上位層の薄さが課題。

★特によかった観点

話す・聞く能力
75.2% (+2.8P)

★課題のある観点

言語についての知識・理解・技能
72.2% (-1.5P)

45.7% (-4.2 P)

48.2% (-7.5 P)

2

次の一と二の故事成語の使い方として最もふさわしいものを、それぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

5 課題と方針

★故事成語の使い方として適切なものを選択する問題において正答率全国比-7.5%、情景描写を正しく理解し適切なものを選択する問題においても-3.2%と、言語事項の項目で課題が見られた。漢字の読み書きにおいても、正答率全国比4.3~3.5%下回る設問がある。

既習事項を繰り返し確認する小テスト等を各校で実施し定着を図る必要がある。

★話合いの観点に基づいて情報を関係付ける項目で、正答率全国比+2.8%と協同学習の取組の効果が表れており、継続的・効果的に協同学習を取り入れたい。

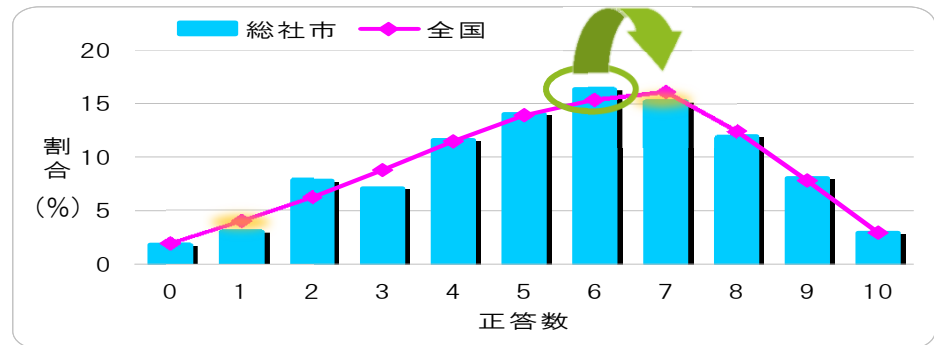
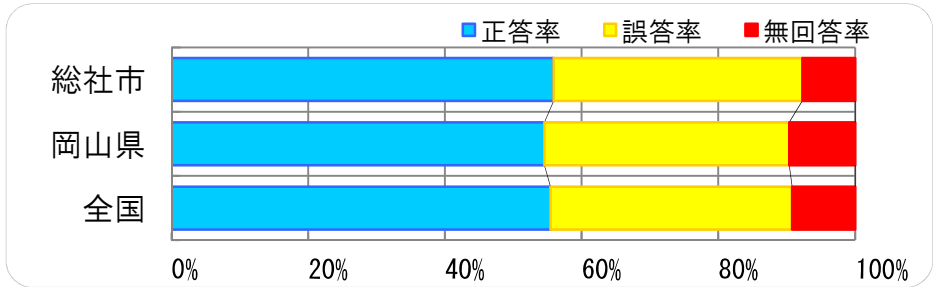
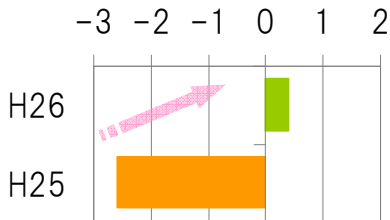
- 二 「百聞は一見にしかず」
- 1 友達の野村さんは、先生の説明のはじめの部分の聞こえと、結論という。百聞は一見にしかずということが出来る人だ。
 - 2 私は、夕日が美しいことで有名な海岸を訪れ、その美しさをことができた。まさに百聞は一見にしかずだ。
 - 3 私は、人からいろいろと細かく注意されるのがいやだ。しかしかすだと助言されたので、そのことをよく考えてみようと思

★平均正答率は 55.9%であり、書く能力等全ての観点において全国を上回っているが、立場を明確にして質問や意見を述べる記述式の設定問においてやや課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 +0.4 P
無回答率 -1.5 P

全国平均との差のグラフ (%)



2 正答数分布

全国比
中央値 ±0 P
正答率40%以下
19.7% ⇒ -1.2 P

3 領域・観点・問題形式別

短答式 68.6% (+0.9P)
記述式 35.2% (+0.8P)

4 特に課題であった設問

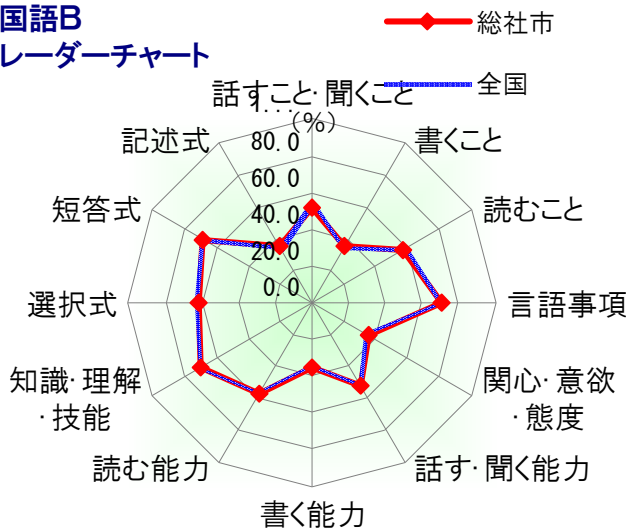
正答率 (全国比)

26.9% (-1.4 P)

大野さんの発言に対して

※左の縦線は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解
※の印から書きましょう。どちらかで行を変えないで、続けて書きましょ

国語B レーダーチャート



★正答数
総社市は6問の割合が最も多い。

★よかった観点
話す・聞く能力
51.9% (+0.7P)
書く能力
35.2% (+0.8P)

★問題形式
短答式だけでなく、
記述式の問題も正答率
が全国を上回った。

5 課題と方針

★目的に応じ話し合いの観点を整理して書く問題において正答率全国比+3.9%、二つの詩を比べて読み自分の考えを書く記述式の問題においても+4.7%と、書く領域において言語活動を充実させる協同学習の取組の成果が見られた。

★整理したり関係付けたりしながらまとめて書くといった記述式の問題は35.2%と、全国を上回ったとは言え依然低いため、「授業アイデア例(H26版)」を参考に文と文をつなぐ方法を考え二文を一文にして書き直す練習や、単行本の帯を制作する活動など書く能力を身に付けさせる指導を工夫して行う必要がある。

①

三

イ

あなたは、「討論会の様子」の中の「質問」か「意見」かのどちらかを選んで書き、その内容を次の条件に合わせて書か。どちらかを選んで書き、その内容を次の条件に合わせて書か。どちらかを選んで書き、その内容を次の条件に合わせて書か。

(条件)

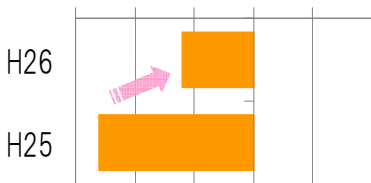
- 大野さん②の発言の中の言葉を、「」を使って引用して書く言葉は二十五字以内とする。
- 書き出しの文に続けて、八十字以上、百字以内にまとめては字数にふくむ。

★平均正答率は 76.9%であり、数量や図形についての知識・理解の観点において全国を下回った。特に、量と測定の領域が全国比-4.7ポイントと課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 -1.2 P
無回答率 -0.3 P

全国平均との差のグラフ (%)



2 正答数分布

全国比
中央値 ±0 P
正答率40%以下
3.8% ⇒ -0.2 P

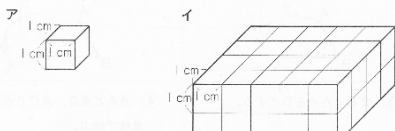
3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問

正答率 (全国比)

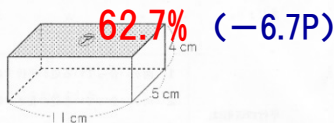
5 74.9% (-6.2P)

(2) 下の図のように、アの立方体を使って、イの直方体を作りました。イの体積は何 cm³ですか。答えを書きましょう。



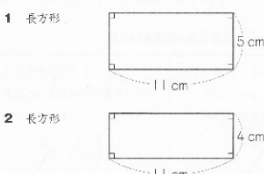
7

下のようち直方体があります。



62.7% (-6.7P)

この直方体の前面になる四角形を、次の 1 から 4 までの中から 1つ選んで、その番号を書きましょう。

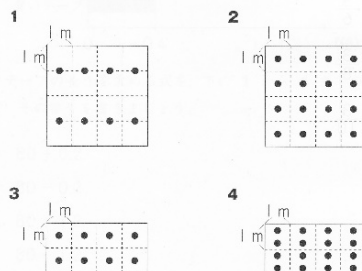


4 56.9% (-3.9P)

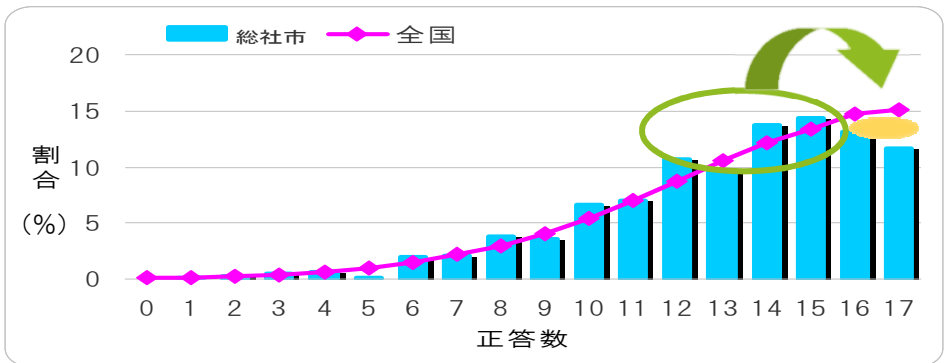
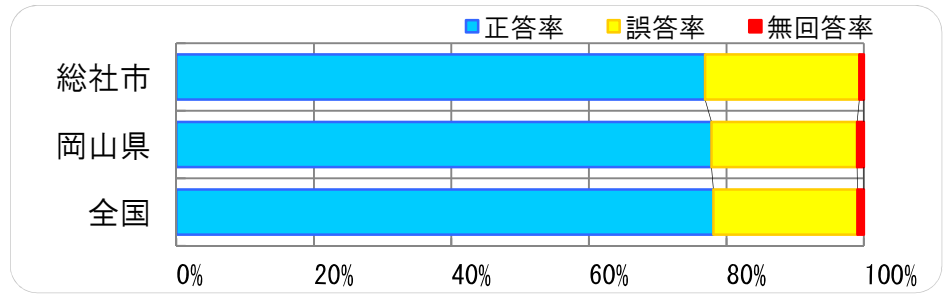
Aの部屋の 1 m²あたりの人数を調べます。

Aの部屋の面積は 8 m²で、部屋の中には 16 人います。

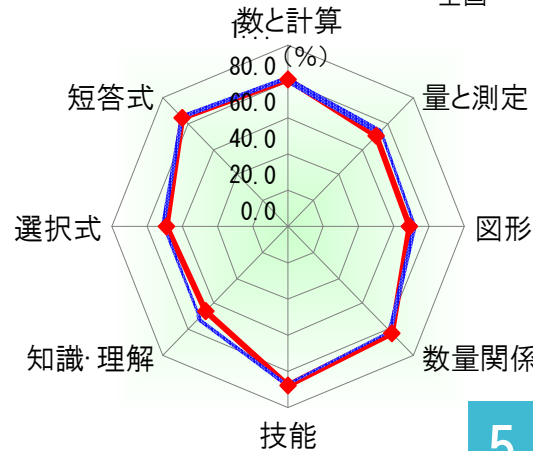
Aの部屋の様子を表している図はどれですか。下の 1 から 4の中から 1つ選んで、その番号を書きましょう。ただし、●は 1 人を表します。



Aの部屋の 1 m²あたりの人数を求める式を書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。



算数A
レーダーチャート



★正答数

総社市は15問の割合が最も多い。上位層の薄さが課題。

★よかった領域

数量関係 83.7% (+2.4P)

★課題のある領域

量と測定 70.1% (-4.7P)

図形 69.3% (-2.5P)

5 課題と方針

★直方体の体積や見取図の辺や面のつながりについての問題において全国を大きく下回り、数量や図形についての知識・理解の観点において課題が見られた。

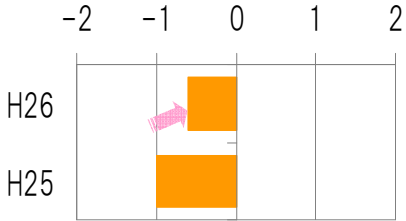
★第5学年に学習した内容の理解に課題が見られたため、学び直しの機会を設定する必要がある。計算のドリル学習に加えて、数量関係や図形の意味を理解し目的に応じて用いることができるよう定期的に指導する必要がある。また、一斉授業の中で上位層の力をさらに伸ばすよう個に応じた指導が必要である。

★平均正答率は 57.6%であり、数学的な考え方の観点において全国を上回ったが、図形の領域において、全国比-7.3ポイントと大きく下回り、課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 -0.6 P
無回答率 -0.4 P

全国平均との差のグラフ (%)

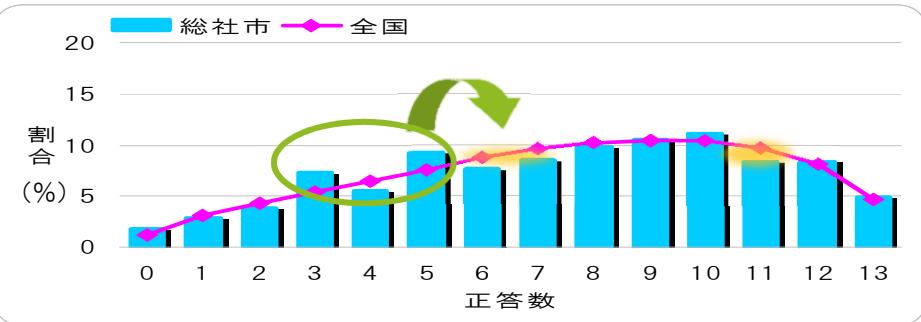
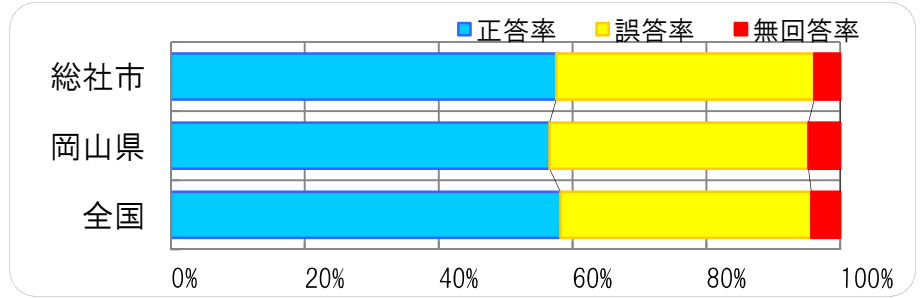


2 正答数分布

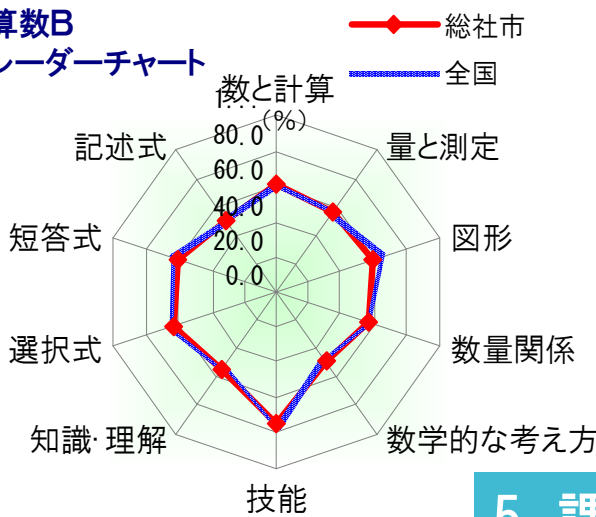
全国比
中央値 ±0 P
正答率40%以下
30.5%⇒-0.4 P

3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問 正答率 (全国比)



算数B レーダーチャート



★正答数

総社市は10問の割合が最も多い。
上位層の薄さが課題。

★よかった観点

数学的な考え方
48.3% (+0.5P)

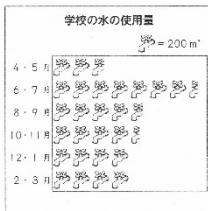
★課題のある領域

図形 58.4% (-7.3P)

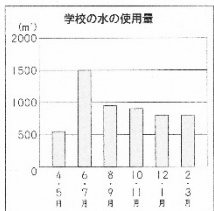
2

(3) あきらさんは、6・7月の水の使用量が1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明します。下の1から4までのどのグラフを使うと最もわかりやすいですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 絵グラフ

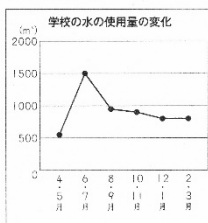


2 棒グラフ

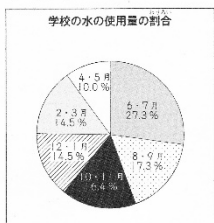


56.6% (-4.9P)

3 折れ線グラフ

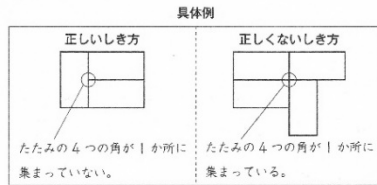


4 円グラフ



5

次に、約束3をもとに、残り4枚の板をどのように置けばよいか、下の具体例を参考にして考えます。



残り4枚の板をどのように置けばよいですか。解答用紙の図の□をなぞって、かきましょう。

58.4% (-7.3P)

※ 下の図は下が向きで示されていますが、向きは関係ありません。



5 課題と方針

★条件を基に残った平面に四つの長方形を敷き詰める問題において全国を大きく下回り、A問題と同様に図形の領域に課題が見られた。また、数量関係をグラフで表すとき、条件に応じ効果的なグラフを選択する問題において課題が見られた。

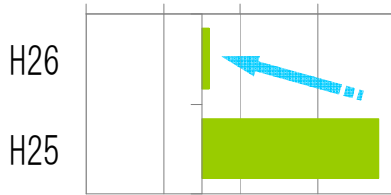
★算数的活動を通して、図形の構成要素や位置関係に着目して考察したり、グラフを効果的に活用することのよさに気付いたりするような、問題解決的な学習を積極的に取り入れる必要がある。

★平均正答率は 79.5%であり、話す・聞く能力は全国を上回っているが、言語事項にやや課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 +0.1 P
無回答率 -0.7 P

全国平均との差のグラフ (%)



2 正答数分布

全国比
中央値 ±0 P
正答率40%以下
4.0%⇒+0.1 P

3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問

正答率 (全国比)

②

- 三 線部④「一つ天麩羅四杯也。但し笑う可らず。」とありますが、これを見ても適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 天麩羅蕎麦を四杯食べたことを繰り返し笑われ、恥ずく気が落ちたことになった。
 - 2 自分の行動を繰り返しからかわれ、生徒のしつこい行動に腹を立てている。
 - 3 何度注意しても黒板に落書きされ、自信をなくして気持ちが落ち込んで、好きでしていることを面白がられ、生徒に理解されず寂しく思っている。
 - 4 好きでしていることを面白がられ、生徒に理解されず寂しく思っている。

73.5% (-5.6P)

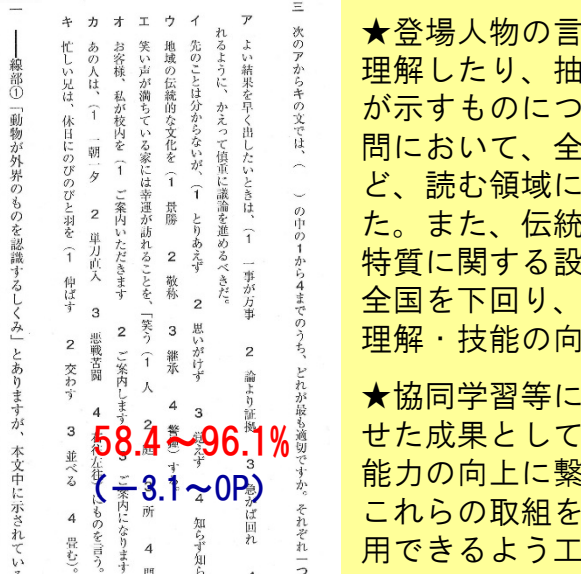
73.6% (-4.6P)

⑤

- 一 線部①「動物が外界のものを認識するしくみ」とありますが、本文中に示されていないもの組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 線部①「動物が外界のものを認識するしくみ」とありますが、本文中に示されていないもの組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
 - 2 線部②「動物が外界のものを認識するしくみ」とありますが、本文中に示されていないもの組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
 - 3 線部③「動物が外界のものを認識するしくみ」とありますが、本文中に示されていないもの組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
 - 4 線部④「動物が外界のものを認識するしくみ」とありますが、本文中に示されていないもの組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

58.4% (-3.1~0P)

96.1%



国語A レーダーチャート 話すこと・聞くこと

★正答数

総社市は28問の割合が最も多い(全国は29・30問)。上位層の薄さが課題。

★よかった観点

話す・聞く能力
73.9% (+1.6P)

★課題のある領域

読む能力
80.0% (-2.9P)

5 課題と方針

★登場人物の言動の意味を考え内容を理解したり、抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解したりする設問において、全国を大きく下回るなど、読む領域において課題が見られた。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する設問の全てにおいて若干全国を下回り、言語についての知識・理解・技能の向上を図る必要がある。

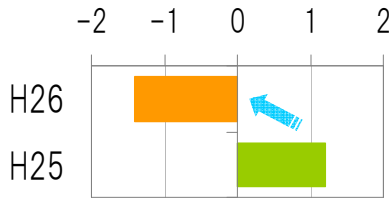
★協同学習等により言語活動を充実させた成果として、話す・聞く能力や書く能力の向上に繋がったと考えられる。これらの取組を読む能力の向上にも活用できるよう工夫する必要がある。

★平均正答率は 49.6%であり、全領域において全国を下回った。特に、書く能力に課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 $-1.4 P$
無回答率 $+0.6 P$

全国平均との差のグラフ (%)



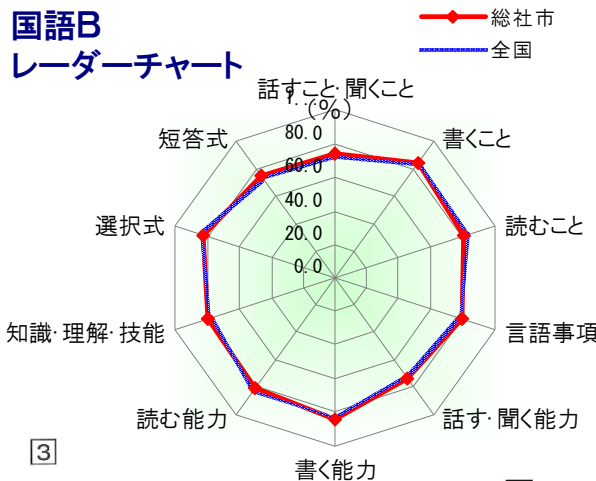
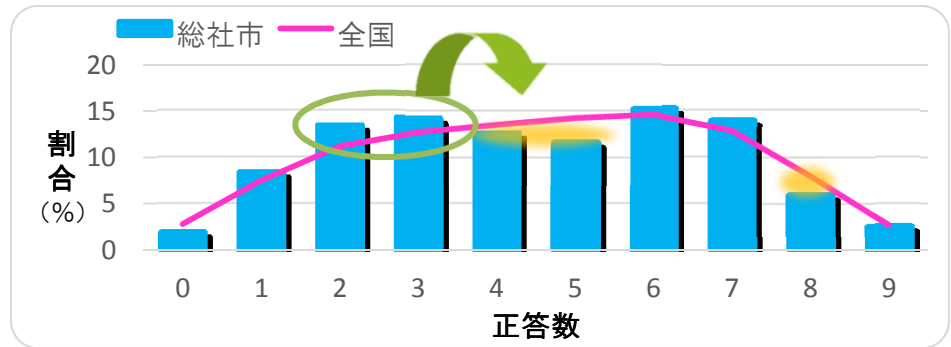
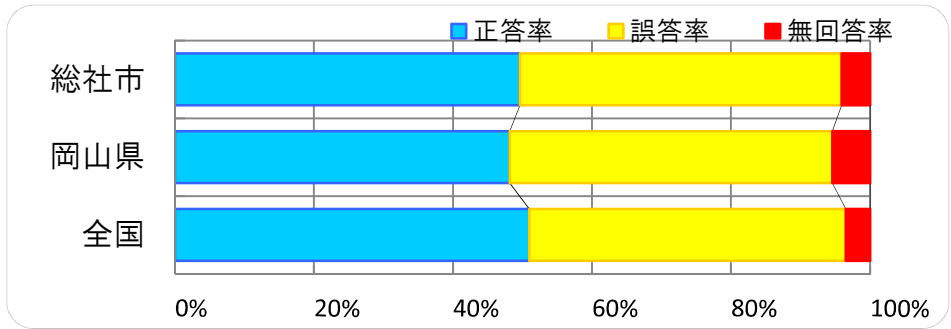
2 正答数分布

全国比
中央値 $-1 P$
正答率40%以下
 $37.9\% \Rightarrow +0.1 P$

3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問

正答率 (全国比)



★正答数
総社市は全国同様6問の割合が最も多いが、下位層の割合も多く、二こぶになっていることが課題。

★課題のある領域
全領域において全国を下回った。

★問題形式
記述式の正答率38.1%と全国を2.9ポイントも下回り、書くことに課題がある。

5 課題と方針

★複数の資料から必要な情報を読み取ったり、人物の言動の意味を考えその姿を想像したり、根拠を明確にして自分の考えを書いたりする設問において全国を大きく下回り、書く能力や言語についての知識・理解・技能において課題が見られ

③ 二 線部③「あっ、それはいかん。さんは目黒にかさる」とありますが、この部分が表す職さまの姿を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

② 二 次の疑問点のうち、「本の一部」や「インターネットの情報の一部」を使って、答5までのうち、適切なものを二つ選びなさい。

1 ガラスとゴムを接着するとき、どのようことに気を付けたらよいか。
2 アプリケをつくつつけるとき、アイロンは何度にすればよいか。
3 人工の面をつける接着剤と面い合わせる接着剤の違いは何か。
4 飛行機を組み立てるときに注意する点、どのような点があるか。
5 瞬間接着剤が非常に速いスピードで乾燥することができるのはなぜか。

三 封筒に貼つてある切手を水の中にしてしばらく浸しておくと、きれいにはがすことができると条件2にしたがつて書きなさい。
なお、読み返して文章を直したとき、本紙で消したり行間に書き加えたり、

条件1 「切手」、「液体」、「アンクル効果」という言葉を全て使って書くこと。
条件2 二十字以上、五十文字以内で書くこと。

1 おいしくないさんまでも家来のためを思っておいふりをする、優しい職さまの姿。
2 目黒でおいしいさんまがとれることを知らない家来に比べ、賢い職さまの姿。
3 ずつと食べたかったさんまをやつと食べることができて、喜んでる職さまの姿。
4 目黒がおいしいさんまのとれるところだと思込込している、世間知らずな職さまの姿。
5 目黒の味を運んでもかまいません、なぜそのように感じるのか、あなたの考えを、あとの条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本紙で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

(同じ)

A 家来を責めるように話せる。
B 家来に問いかけるように話せる。

条件1 このように言つた職さまの気持ちを想像して書くこと。なお、そのように想像した根拠を、「落語「目黒のさんま」のあらすじ」や「落語「目黒のさんま」の最後の部分」から引用したり要約したりして書くこと。

26.9% (-1.5P)
56.8% (-5.1P)
61.8% (-5.4P)
41.4% (-5.1P)

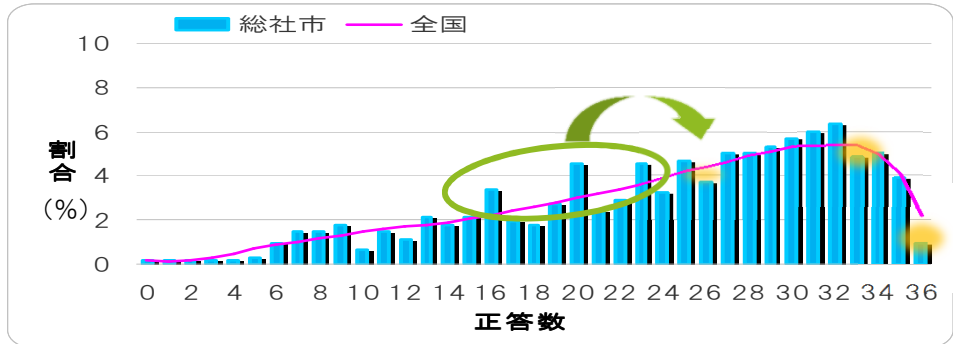
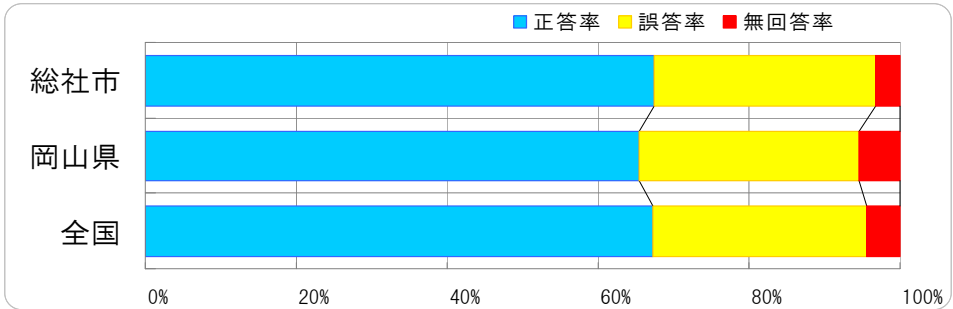
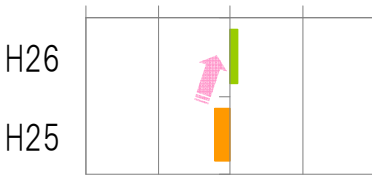
★資料や文章を読み取り、根拠を明らかにして自分の考えを書くことを一体的に指導する必要があり、単元ごとに演習を重ねる必要がある。

★平均正答率は 67.5%であり、数学的な技能は全国を上回っているが、数量や図形などについての知識・理解にやや課題が見られる。

1 正答率

全国比
平均正答率 +0.1 P
無回答率 -0.7 P

全国平均との差のグラフ (%)
-2 -1 0 1 2



2 正答数分布

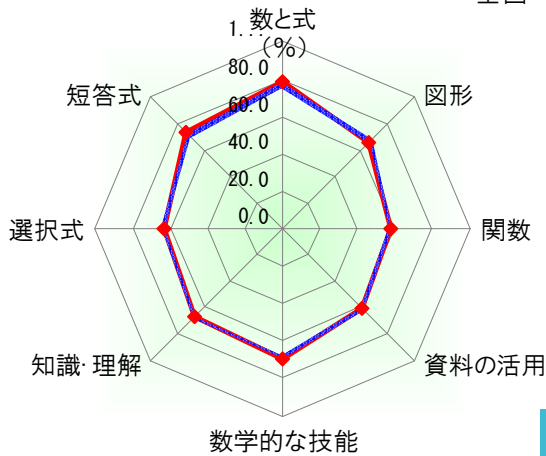
全国比
中央値 ±0 P
正答率40%以下
14.2% ⇒ +0.1 P

3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問

正答率 (全国比)

数学A レーダーチャート



★正答数

総社市は32問の割合が最も多いが、全国は32・33問が最も多くなっており、上位層の薄さが課題。

★よかった領域

数と式 78.8% (+1.4P)
資料の活用 60.3% (+1.3P)

★課題のある領域

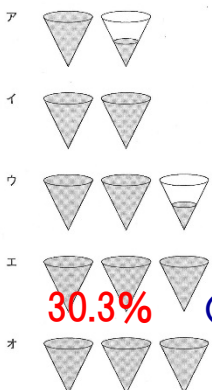
図形 65.1% (-1.3P)

⑤

(4) 下の図は、円柱、円錐の形をした容器です。それぞれの容器の底面は合同な円で、高さは等しいことがわかっています。この円柱の容器いっぱいに入れた水を円錐の容器に移します。



このとき、下のアからオまでの中に、円柱の容器に入っていた水と同じ量の水を表している図があります。正しいものを1つ選びなさい。



①

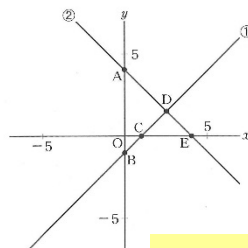
(2) $2 \times (-5^2)$ を計算しなさい。

67.3%
(-3.4P)

30.3% (-8.4P)

⑫ 次の図の直線①と直線②は、それぞれある二元一次方程式のグラフを表しています。

この2つの方程式を組み合わせることができる連立方程式について、その解である x, y の値の組を座標とする点が、図の点Aから点Eまでの中にあります。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。



ア 点A 61.8% (-4.9P)
イ 点B
ウ 点C
エ 点D
オ 点E

5 課題と方針

★底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係や連立二元一次方程式の解が2直線の交点の座標として求められることなど、数量や図形についての知識・理解の設問において全国を大きく下回り、課題が見られた。

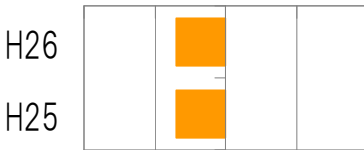
★円錐や円柱の体積の関係や円錐の展開図における扇形の半径と母線の長さとの関係についての理解が不十分であることから、振り返りの時間を大切にするとともに、根拠を明らかにしながら基本的な問題を繰り返し解く学習を行う必要がある。

★平均正答率は 59.1%であり、数量や図形などについての知識・理解にやや課題が見られる。無回答率は、全国よりも0.7ポイントも少なかったが、記述式の問題において課題が残る。

1 正答率

全国比
平均正答率 $-0.7 P$
無回答率 $-0.1 P$

全国平均との差のグラフ (%)
-2 -1 0 1 2



2 正答数分布

全国比
中央値 $-1 P$
正答率40%以下
 $30.1\% \Rightarrow +0.1 P$

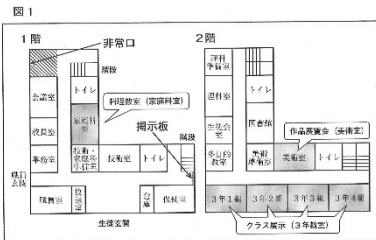
3 領域・観点・問題形式別

4 特に課題であった設問

正答率 (全国比)

① 第一中学校では文化祭の準備をしています。実行委員の健太さんは、来客用のほり紙やパンフレットを作ったり、校舎に横断幕を取り付けたりします。

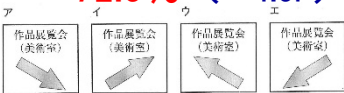
図1は校舎の1階と2階の案内図です。



次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

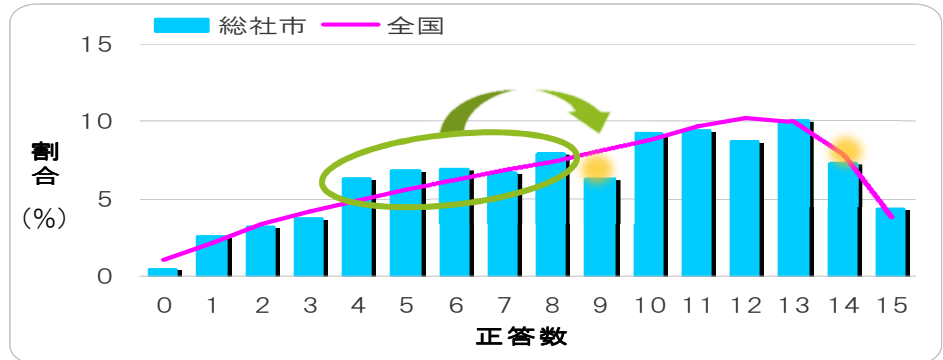
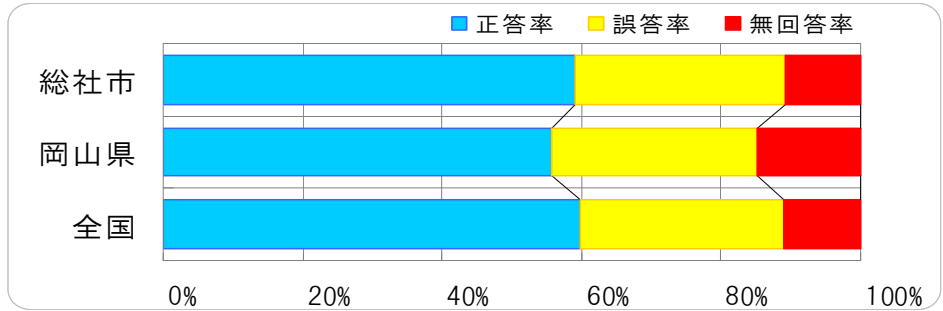
(1) 図1の掲示板に、美術室への経路を示すほり紙を掲示します。そのほり紙が、下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。

72.5% (-4.5P)



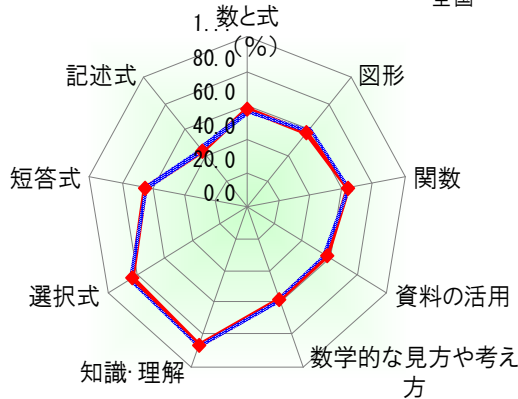
(3) 図3のように、校舎に「一文化祭」の横断幕を取り付けます。健太さんは、校門の位置に立って見たときに、図4のように横断幕が木にまったく隠れない高さで、最も低い位置に取り付けたいと思いました。そこで、図5のように、校門の位置に立っている健太さんと木と校舎を真横から見た図をかくて、木に隠れない横断幕の位置を考えることにしました。

横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉で説明しなさい。解答用紙の図を使って説明してもかまいません。



数学B

レーダーチャート



★正答数

総社市は13問の割合が最も多い(全国は12問)が、4~8問も全国より多い。

★よかった領域

資料の活用 57.3% (+1.3P)

★課題のある領域

図形 56.3% (-2.3P)

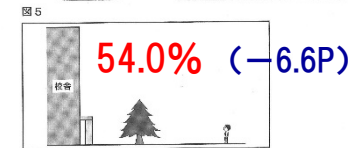
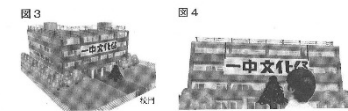
★問題形式

記述式の問題の正答率が42.8%と全国を2ポイントも下回った。

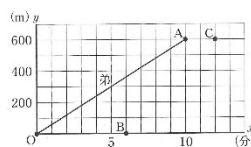
5 課題と方針

★空間における図形の位置関係を的確に捉えたり、事象を理想化・単純化した結果を数学的に解釈して問題解決の方法を説明したりする問題において全国を大きく下回り、A問題と同様に図形の領域に課題が見られた。また、数量関係においても、グラフの特徴を解釈して問題解決に向かう問題において課題が見られた。

★空間図形の位置関係に着目して考察したり、グラフを効果的に活用したりするような、問題解決的な学習を取り入れる必要がある。その学習の中で、生徒自身がフリーハンドで図や補助線を書き込んで考えることのよさを感じさせる指導が必要である。



(3) 見の遠さを要すれば、出発する時間を要さなくても、弟が駅にいたときに、ちょうど兄が駅に近づくことができます。このよさをグラフに表すには、弟と兄の進むようすの4点O、A、B、のうち、どの2点を結べばよいですか。その2点を着きなさい。また、その2点を結んだグラフから見の遠さを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に見の遠さを求める必要はありません。



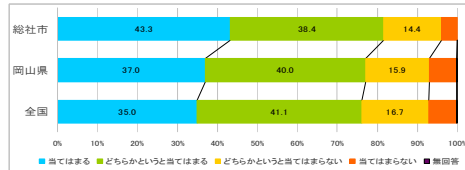
27.0% (-2.9P)

★自尊心・自己肯定感が高くなっている。家庭学習の時間と取組方法に課題がある。

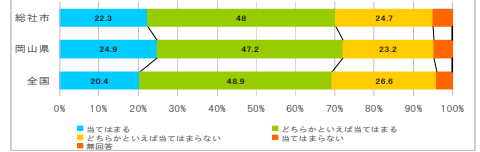
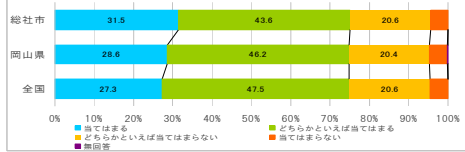
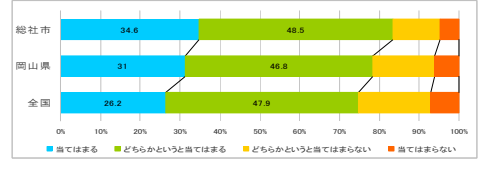
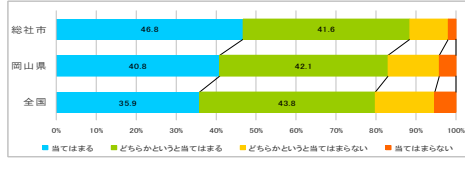
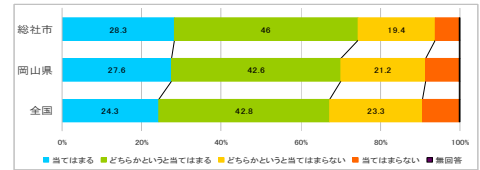
自分に関する項目

- 自分にはよいところがある
全国比 小学校 +5.3 P
中学校 +7.2 P
- 先生はあなたのよいところを認めてくれている
全国比 小学校 +8.7 P
中学校 +9.0 P
- 友達に伝えたいことをうまく伝えることができる

小学校6年生



中学校3年生



★「だれもが行きたくなる学校づくり」のプログラムにより、小・中共に自尊心が高く、教師と児童生徒の人間関係が良好で、教師によるサポートがうまくいっていると考えられる。中学校においては、自己表現能力の向上を目指し、SELや協同学習の取組を更に充実させる必要がある。

家庭に関する項目

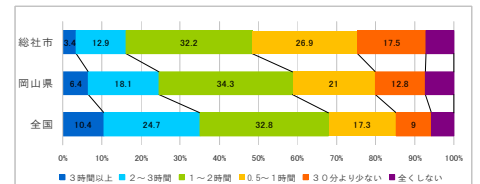
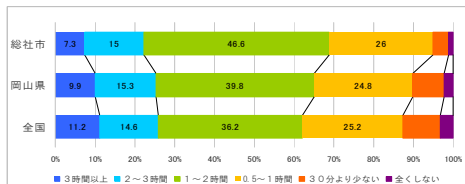
- 朝ご飯
毎日朝食を食べている (%)
 - 家庭学習時間 (平日)
 - 家で授業の予習・復習
予習・復習を「している」「どちらかといえばしている」児童生徒の割合 (%)
- H26の全国比
小学校 予習 -0.3 P
復習 +1.6 P
中学校 予習 -4.4 P
復習 -9.2 P

小学校6年生

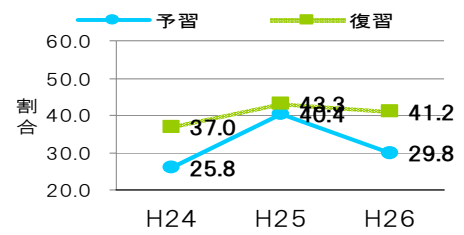
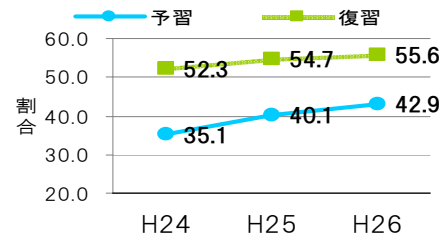
項目	総社市	岡山県	全国
朝食	87.8	87.9	88.1

中学校3年生

項目	総社市	岡山県	全国
朝食	85.3	83.6	83.8



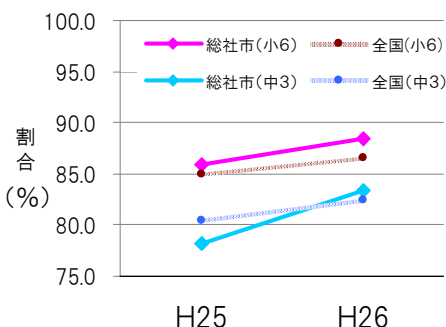
予習・復習を「している」「どちらかといえばしている」児童生徒の割合 (%)



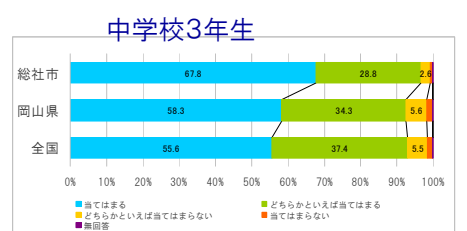
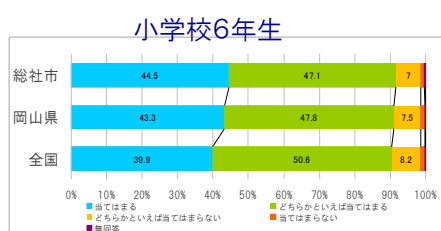
★中学校における家庭学習の時間の確保が課題であり、学校からの課題の出し方を工夫し、予習・復習の習慣化を図る必要がある。

学校生活に関する項目

- 学校は楽しい
- 学校の決まりを守る



- 学校は楽しい
- 学校の決まりを守る



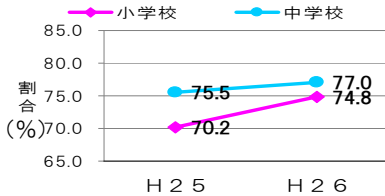
★「だれもが行きたくなる学校づくり」の取組により、学校の居場所づくりが図られるとともに、規範意識が高まった。

★児童生徒の互いを認め合い・支え合う気持ちが育つとともに、規範意識や向上心が高まってきている。

学校生活に関する項目

9 いじめはどんな理由があってもいけないことと思う

10 人の役に立つ人間になりたいと思う



「そう思う」児童生徒の割合 (%)

小学校6年生

総社市	岡山県	全国	全国比
85.8	82.2	82.1	+3.7 P
総社市	岡山県	全国	全国比
74.8	73.2	72.0	+2.8 P

中学校3年生

総社市	岡山県	全国	全国比
74.8	74.3	72.1	+2.7 P
総社市	岡山県	全国	全国比
77.0	74.6	72.8	+4.2 P

★ピア・サポート等の取組により、支えられることの喜びと支えることのやりがいを感じられるようになり、認め合い・支え合う気持ちが育成されつつある。

教科に関する項目

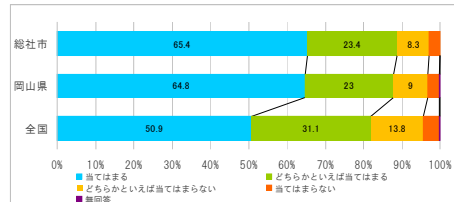
11 めあての提示

全国比
小学校 +6.8 P
中学校 +13.3 P

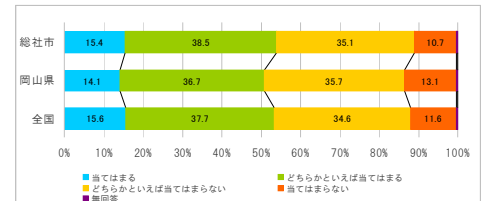
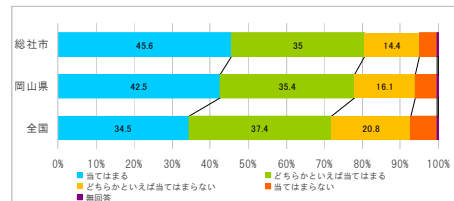
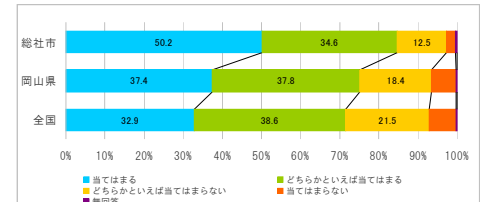
12 振り返りの実施

全国比
小学校 +8.7 P
中学校 +0.6 P

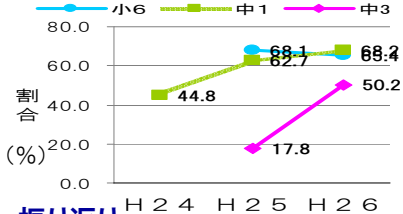
小学校6年生



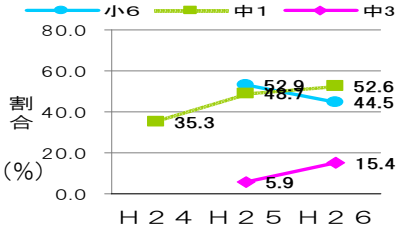
中学校3年生



めあて



振り返り



★「めあての提示・振り返りの実施」については、平成25年度は学校抽出による新規の質問項目であり、中学校1年生対象の岡山県学力・学習状況調査の生徒質問紙にもある。県調査における経年変化を見ると「当てはまる」の回答率が上昇し、子どもたちがめあてを持って学習に臨む習慣が定着しつつあることや、まとめだけでなく振り返る時間が確保され、子ども自身がその時間に学習したことを次時に生かせるよう工夫がなされつつある。しかし、中学校は低い数値となっており、中学校において本時のねらいを生徒につかませて授業を実施することや振り返りの時間を確保することが十分にできていないことは課題である。

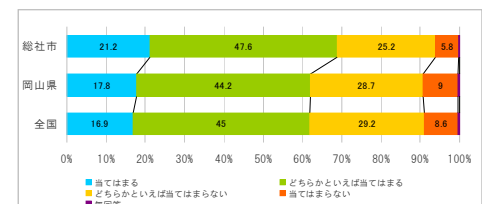
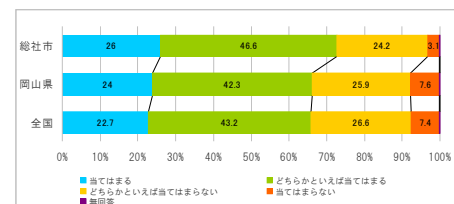
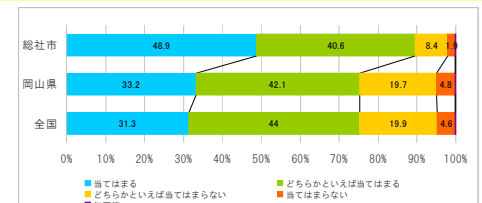
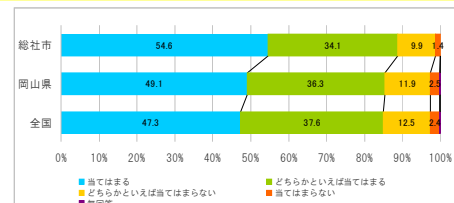
13 授業中の話し合い活動

(1) 実施状況

全国比
小学校 +7.3 P
中学校 +17.6 P

(2) 自分の考えを深めたり広げたりできている

全国比
小学校 +3.3 P
中学校 +4.3 P



★協同学習の取組により、授業中の話し合い活動が充実し、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになり、小・中学校のB問題の正答率の向上につながっていると考えられる。

輝きプランの数値目標の達成状況

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果から（児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合と全国比）

1 自尊感情に関する項目

肯定的な回答80%以上
を目指す

- ①「自分にはよいところがあると思うか」
小学校 81.7%（全国比+5.3） 中学校 74.3%（全国比+7.2）
- ②「学校に行くのは楽しいと思うか」
小学校 88.4%（全国比+1.8） 中学校 83.4%（全国比+1.9）
- ③「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」
小学校 88.4%（全国比+8.7） 中学校 83.4%（全国比+9.0）

★①については、小学校は年々上昇し現時点で達成しているが、中学校はH24の72.7%からは上昇し、全国を大きく上回っているが、達成には至っていない。
②③共に、小・中学校共に現時点で達成し、全国を上回っている。

2 規範意識に関する項目

肯定的な回答90%以上
を目指す

- ④「学校のきまりを守っているか」
小学校 91.6%（全国比+1.1） 中学校 96.6%（全国比+3.6）
- ⑤「人の気持ちが分かる人間になりたいか」
小学校 94.5%（全国比+0.1） 中学校 96.4%（全国比+1.1）

【参考】学校質問紙から

- ◎「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思うか」
小学校 86.6%（全国比-3.1） 中学校 100%（全国比+7.9）
- ◎「児童生徒は礼儀正しいと思うか」
小学校 80.0%（全国比-7.6） 中学校 100%（全国比+10.0）

★④⑤については、小・中学校共に現時点で達成しており、中学校の方が高い数値となっている。学校質問紙では、中学校は100%となっているが、そのうち「どちらかといえば当てはまる」は50%である。小学校において、学校間の意識の差があり、授業規律の徹底が必要である。

3 意欲・忍耐力に関する項目

肯定的な回答90%以上
を目指す

- ⑥「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しているか」
小学校 78.2%（全国比+3.1） 中学校 67.3%（全国比-0.7）
- ⑦「文章やわけを書く問題に最後まで解答を書こうと努力したか」
小学校 国語 80.4%（全国比+4.3） 中学校 国語 67.2%（全国比-3.2）
算数 83.0%（全国比+3.3） 数学 56.0%（全国比-1.7）

★⑥の目標達成率は、小学校74.8%、中学校86.8%で小中共に達成に至っていない。
⑦についても、小中共に達成に至っていない。
間違いを恐れず解答したり、粘り強く考えたりできるよう、多様な考え方や解き方を認める指導や授業の工夫を行う必要がある。特に中学校で、解答を書かなかったり、途中であきらめた問題がある生徒の割合を減らしていくことが必要である。

4 将来の夢や目標に関する項目

肯定的な回答80%以上
を目指す

- ⑧「将来の夢や目標を持っているか」
小学校 87.5%（全国比+0.8） 中学校 68.4%（全国比-3.0）
- ⑨「人の役に立つ人間になりたいと思うか」
小学校 95.3%（全国比+1.3） 中学校 94.6%（全国比+0.6）

★⑧では、小学校は現時点で達成しているが、中学校の目標達成率は85.5%であり、長期・短期的な目標を持たせ、それに向かって努力をする姿勢を育てていく必要がある。
⑨では、小・中共に現時点で達成しており、自尊感情（自己肯定感や自己有用感等）の高まりにより、この項目が高くなっていると考えられる。これを夢や目標につながるよう指導する必要がある。

輝きプランの数値目標の達成状況

平成26年度岡山県学力・学習状況調査の結果から

1 正答率

岡山県比 +0.7 P
岡山県比 +4 P を
目指す

平均正答率	総社市	岡山県	県比
国語	68.0	67.4	+0.6P
社会	54.7	53.9	+0.8P
数学	59.1	57.7	+1.4P
理科	52.6	52.4	+0.2P
4教科平均	58.6	57.9	+0.7P

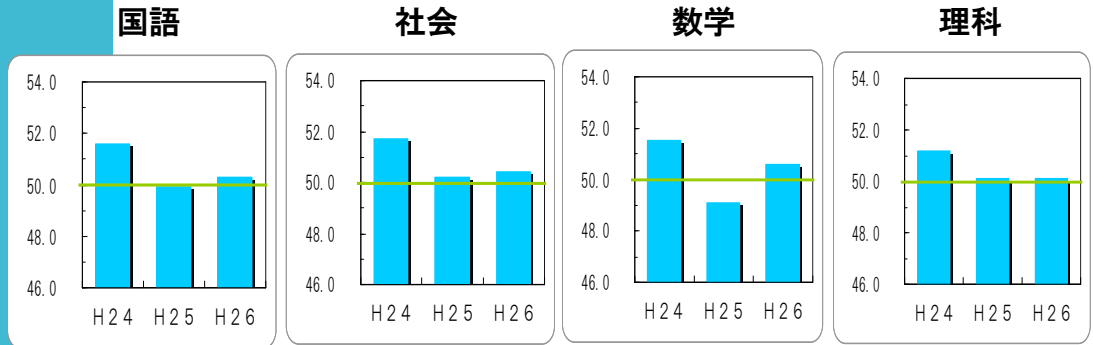
★4教科全てにおいて、岡山県の平均正答率を上回ったが、H24の総社市の4教科平均正答率65.0%（岡山県比+2.9P）には及んでいない。

★総社市が小学校6年生の2学期に実施している総社市標準学力調査の結果を活用し、定着していない単元や内容を3学期に復習する時間を取る必要がある。

2 推移

①標準スコア (H24～H26)

※標準スコア
県平均(正答率)
を50とした相対
的位置を示した
スコア

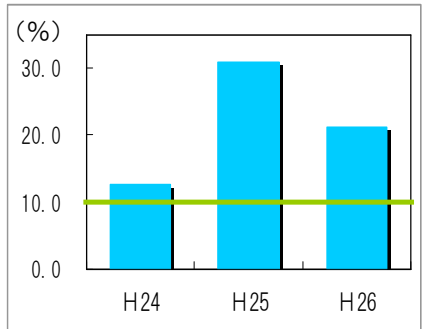


②正答率40%以下の生徒の割合 (H24～H26)

H26 21.2%
15%以下を目指す

正答率40%以下の割合の推移とグラフ

	H24	H25	H26
国語	5.2	16.3	10.7
社会	16.8	14.4	24.4
数学	11.6	45.6	22.9
理科	17.1	47.6	26.6
4教科平均	12.7	31.0	21.2



★4教科平均におけるH26の正答率40%以下の生徒の割合は、H24と比較して8.5%も増加している。問題の難易度が関係するが、標準スコアと併せて見ても課題であり、下位層を減らすことは重要である。そのためには、特に基礎・基本の定着に力点を置いた指導を徹底して行う必要がある。言語や計算のドリル学習を繰り返し行うだけでなく、社会や理科の既習事項の知識・理解を確認する宿題や単元テスト等を定期的に行う必要がある。

3 プランの達成率

★「4教科の平均正答率 県内NO. 1」という目標については、H26は15市の中で第3位であり、現時点では達成に至っていない。

★「正答率40%以下の児童生徒の割合10%以下」という目標については、達成率87.6%と目標にはほど遠い状態である。H24の数学の正答率を見てみると、基礎76.4%、活用41.8%であったのに対し、H26は基礎60.6%、活用53.4%と基礎の問題の正答率が下がり、活用の問題の正答率が上がるといった状況にある。このことから、小学校6年間に学習する基礎的・基本的な内容に繰り返し当たり、定着を図ることが、目標達成の鍵となると考える。

1年目終了時点の成果と課題

- ★定期的・組織的な既習事項の確認による基礎・基本の定着
- ★見通しを持ち振り返る活動や協同学習の充実
- ★家庭との協働による家庭学習の活性化

1 学力・学習状況調査結果から

小学校の国語Bで全国を上回った。輝きプランにより言語活動の充実が図られつつあり、算数・数学を含め、B問題の正答率の伸びは評価できる。しかし、A問題においては、国語・算数共に全国を下回る結果となった。基礎・基本の定着を図ることは、活用力を伸ばすためにもとても重要である。そのため、今後は特に基礎・基本の定着に力点を置いた指導を徹底して行う必要がある。言語事項や数と計算のドリル学習を繰り返し行うことだけでなく、既習事項の知識・理解を確認する宿題や単元テスト等を定期的に行うなどの取組を学校全体で統一し、組織的に実施する必要がある。

それが、正答率40%以下の児童生徒の割合を、全国調査は15%・県調査は10%以下」という輝きプランの目標値の達成にもつながると考える。

学校別の正答率と児童生徒質問紙との関連を見ると、見通しを持ち振り返る活動や協同学習等の話し合い活動を積極的に実施した学校ほど平均正答率が高い傾向が見られた。協同学習において、思考役割・感情の交流を積み重ねたこと、まとめと振り返りを意識して行ったことにより、学習し学んだことを子ども自身が言葉にし、ノートにまとめる作業を毎時間繰り返すことにつながり、記述式の問題の正答率のアップや無回答率の減少、活用力の向上につながったと考える。

しかし、学校がこれらの活動を行っていると考えていても、めあてとまとめが示されたと受け取っていない児童生徒が存在し、特に中学校でその割合が大きいこと、振り返りが十分できていないことが課題である。また、小・中学校共に記述式の問題や書く能力を測る問題の正答率は依然低いままであるので、書く機会を確保するだけでなく、その内容まで踏み込んだ指導が必要である。児童生徒が自分の考えや分かったことを文章化するようなまとめと、めあてに対して自分自身はどう取り組んだかを実感できるよう振り返りの場を授業に位置付けることが重要であると考えられる。

また、小中共に1単位時間の中で何が分かり何を復習すべきか、次時に向けて何を予習しておくべきかを子ども自身が把握できるよう、振り返りの工夫をすることも急務である。これにより、宿題をこなすだけでなく、自主的に家庭で予習したり、復習したりすることにつながり、家庭学習の時間が確保され、知識・理解の定着は図られると考える。

いずれにしても、家庭学習においては、家庭との協働体制が構築できていることが大きな効果を生むことになるため、どのように家庭と連携を図るかも大きな課題の一つである。

2 プランの取組状況から

(1) 言語活動を重視した分かる授業づくり

取組	状況等
①「学力・学習状況改善プラン」を作成し、分かる授業づくりを学校全体で推進	各学校は、学力・学習状況改善プランを作成し、中学校区で評価・検証・改善を実施している。 市教委による学力に課題のある学校への支援及び指導方法の提案を継続して行う。
②学習環境の整備とICTの効果的な活用等による学習意欲の向上	市教委は、平成26年7月までに中学校全教室にエアコンを整備した。平成26年10月までに小学校のICT機器を新しく整備する。 今後は、各学校において、多様化する児童生徒に応じたユニバーサルな授業の工夫を推進するよう、市教委が学校訪問をしていく。
③授業研究の充実	指導教諭による公開授業やだれもが行きたくなる学校づくりのサテライト研修等により、校内研究の活性化と幼小中の校種を越えた授業研究が進んでいる。
④若手教員の指導力向上のための研修の充実	平成26年度は7月と10月の2回実施した。総社市の小中の授業のスタンダード化に向けて、授業のめあてと振り返り、授業規律の確立のための手法等を研修した。併せてOJTを活性化させるために相談し合える同僚性の構築に向けた研修も実施した。

1年目終了時点の成果と課題

★小中連携・小小連携が着実に進んでいる。だれもが行きたくなる学校づくりの取組内容を学校の実態に合わせ、更に意味あるものに深化させる。

(2) だれもが行きたくなる学校づくり

取組	状況等
<p>①協同学習</p> <p>◇すべての授業で 話し合い活動・学び合い活動</p> <p>【例】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 めあて確認 2 自分の考え 3 グループ話し合い 4 全体話し合い 5 振り返り  <p>＜合い言葉＞ 「一コマ5分、一日30分」 「コミュニケーションの量を確保」 「個々の役割を明確に」</p>	<p>各学校は、協同学習を取り入れながら、各教科の何を身に付けさせていくか「めあて」を明確にした授業を実践している。</p> <p>協同して自分の考えを説明したり書いたりする学習活動を単元や領域の中で意図的、計画的に取り入れるよう実践を積み重ねている。</p> 
<p>②ピア・サポート</p>  <p>SEL</p>	<p>各学校は、多様なサポート活動の実践により、リーダーシップ、思いやりの心、感謝する心、支え合う力等を育てている。</p> <p>児童生徒は、自己有用感や規範意識等を高める活動を行うことにより、学習意欲や忍耐力の向上と自分らしい生き方を追求する力等を育成している。</p> 
<p>③SEL (社会性と情動の学習)</p> <p>＜小学校3年＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① いろいろな気持ち ② わくわくがっかり ③ 不安とリラックス ④ 感情を知る手がかり ⑤ ムカムカ気持ち ⑥ 感情のコントロール ⑦ 聴き方(傾聴) ⑧ アサーション ⑨ 断り方 ⑩ 問題解決 etc. <p>＜中学校2年＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① いろいろな気持ちの表現方法 ② 感情を知る手がかり ③ 気持ちについて ④ ストレス対処法 ⑤ 聞き方 ⑥ 断り方・頼み方・指示の出し方 ⑦ 様々な解決方法・結果の予想 ⑧ 問題解決 etc. 	<p>各学校は、8～10単位時間程度のSELによりコミュニケーションスキルの向上を図っている。</p> <p>中学校においては、SELによる情報モラル教育の実践的研究を行っている。</p> 
<p>④品格教育</p> <p>◇月テーマに関する様々な活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 0 広報活動 1 朝礼の話 2 週の目標 3 道徳の授業 4 自分のめあて 5 実践と振り返り  <p>ふるさと愛</p>	<p>各学校園は、月テーマに係る道徳の授業を実施し、よい習慣と規範意識の定着を図っている。毎月、園児・児童生徒が月テーマに関する自己目標を立て、その振り返りを行っている。引き続き、家庭・地域に品格教育の取組への協力を要請し、連携を強化していく。</p> 
<p>⑤教員研修</p> 	<p>市教委は、平成25年度は年18回の研修を実施した。市内全幼稚園及び小・中学校の教職員は、年に6時間から30時間程度の研修を受けた。延べ1,906人の教員等が研修に参加した。</p> <p>研究授業を通して行うサテライト研修や教職員自身が必要に応じて講座を選ぶアラカルト研修(全員研修)を実施しており、より一層実践的、主体的な研修が展開されている。</p> 

★小中連携・小小連携が着実に進んでいる。だれもが行きたくなる学校づくりの取組内容を学校の実態に合わせ、更に意味あるものに深化させる。

(3) 家庭・地域との協働体制づくり

取組	状況等
①学びサポートチーム	市教委は、きめ細かな指導の充実を図るため、学校力向上教員加配事業により市費による生徒指導員、別室登校指導員、SCC補助員、講師（授業改革・教科指導・日本語指導）等を配置している。
②多様な子どもへの支援	市教委は、特別な支援を要する子どもの教育的ニーズに応じるため学校力向上教員加配事業により市費による特別支援教育支援員、特別支援教育支援補助員を配置している。 個別の教育支援計画等を引き継ぐ体制を確立し、保幼小中の連携を強化することが今後の課題である。
③学習習慣の定着	授業規律・しつけの徹底と学習習慣の定着に向け、課題の出し方や課題のチェック方法を校内で統一する学校が増えている。市内全校において実施できるよう推進することや家庭学習を促進する教材の研究開発をすることが課題である。また、放課後の学習サポート等の補充学習が進んでおり、各学校は学習習慣の定着に向けて工夫している。 市教委は、放課後等の学習をサポートするための人員配置を行っている。
④地域人材の活用	地域の人材を活用した学習支援ボランティアを活用する学校が増加している。また、大学や高等学校とも連携をして、長期休業中などに学習支援を実施するような学校も増加している。 市教委は、学校支援ボランティアや雪舟スクールサポーターへの登録を呼び掛けている。
⑤家庭・地域への情報公開	各学校は、学力調査の分析と課題の公表をし、家庭・地域と共通理解を図っているが、学校間の取組に差があることが課題である。 市教委は、いじめ問題等協議会やホームページ等を有効に活用し、総社市全体の取組を公開することにより、家庭・地域との協働体制の充実を図っている。

Character Education (品格教育)

- 言葉** じぶんの**考え**に気をつけて
考えは**言葉**になるから
- 行動** じぶんの**言葉**に気をつけて
言葉は**行動**になるから
- 習慣** じぶんの**行動**に気をつけて
行動は**習慣**になるから
- 品格** じぶんの**習慣**に気をつけて
習慣は**品格**になるから
- 運命** じぶんの**品格**に気をつけて
品格は**運命**を創るから

★三つのアプローチによる取組状況は順調であるが、それぞれに課題があり、取組状況に学校間の差があるため、3年目に向けて市教委も各学校も状況把握に努めながら、不十分な点を改善していく必要がある。また、市教委は、家庭学習の充実を目指して、家庭と学校が連携できるような仕掛けを考える必要がある。

- ★学校全体で落ち着いた学習環境の整備・保障を！
- ★教員も児童生徒も共にPDCAを着実に！
- ★小学校低学年からの学習習慣の定着と進路の保障を意識した指導を！

3 成果を上げた学校の取組から

A 小学校

※H25小学校6年時の全国学力・学習状況調査の国語と、同生徒がH26中学校1年時の岡山県学力・学習状況調査の国語の正答率の分布を比較

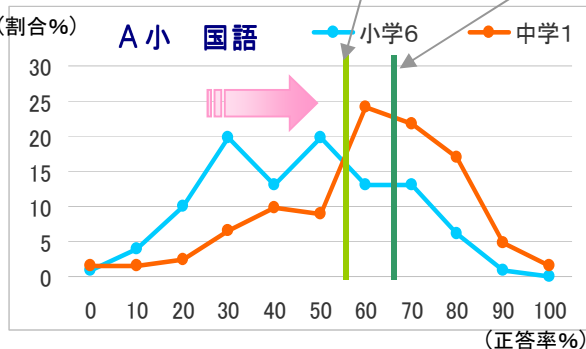
総社市平均正答率 小学6:56.3 ⇒ 中学1:68.5

A小学校は、大規模校であるにもかかわらず1年間の伸びは顕著である。

学校の取組によると、その土台には、落ち着いた学習環境が保障されていたことが挙げられる。同児童集団は、小学校6年生時までは落ち着いて学習できていなかったが、6年生になり改善された。ピア・サポート活動等により、最上級生としてのプライドと中学校へのあこがれの意識から学習意欲の向上につながったと考えられる。

また、幼小連携が進み、小1プロブレムの解消に向けて、一人一人の児童に応じた支援を早期から実施できるようになってきたこともある。低学年から学習習慣の定着を図るため、学校全体で統一したものを教員が意識するようになったことと、基礎的・基本的な既習事項を振り返る取組を系統的に入れたことも要因の一つであろう。

さらに、中学校教員による乗り入れ授業の実施や高等学校と連携した長期休業中の学習支援もA小学校の取組の特徴である。



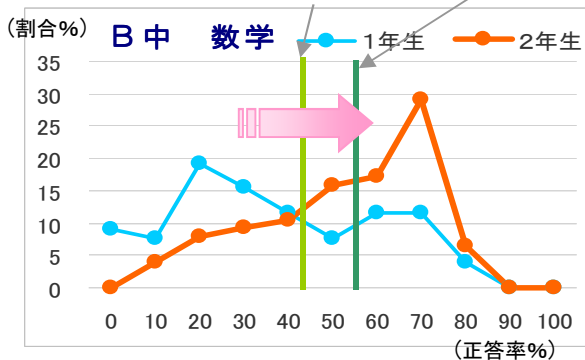
B 中学校

※H25中学校1年時の岡山県学力・学習状況調査の数学と、同生徒がH26中学校2年時の総社市標準学力調査の数学の正答率の分布を比較

総社市平均正答率 1年生:44.0 ⇒ 2年生:57.3

B中学校では、中学校入学当初から落ち着きにくかった1年生に対し、基礎・基本を定着させ自信を付けさせるため、定期テスト前や長期休業中を中心に生徒自身の希望による個別指導を実施した。家庭学習用の課題を使って行うことにより、課題の取り組み方を学ぶきっかけとなった。相乗効果として、課題の提出率も向上した。

また、協同学習の取組等により、生徒同士や教師と生徒との人間関係づくりがなされ、問題行動が減少したことも要因の一つであると考えられる。学力向上を図る上で、自分が認められていることを実感できる学級・学校風土は不可欠であると考えられる。



4 今後の方向性

三つのアプローチにより、幼小中の連携が進んできている。また、市教委による学校一括交付金「きらめき交付金」の有効活用が進み、中学校区ごとにスタンダード化が図られつつある。一方で、三つのアプローチによる取組状況は順調であるが、学校間の差が大きいことから、市教委も各学校も状況把握に努めながら、差が縮まるよう連携していく必要がある。

また、生徒指導と学習指導は、学力向上の両輪であり、教師と生徒の信頼関係を構築しつつ、児童生徒が集団としての力をよい方向に発揮できるような学級・学校づくりの中で、落ち着いた当たり前の学習活動を進めていくことが最も重要と考える。

さらに、今後特に重要視すべきことは、小学校低学年から家庭と連携して学習習慣の定着を図ることと、中学校だけでなく小学校でも進路を保障するといった出口を意識した指導をスパイラルで進めることであると考えられる。キャリア教育の一層の充実が必要である。

これらを、各学校や中学校区で一体となって取り組んでいきたい。